

<随想>

一般教養としての地理教育の役割

The Role of Geography Education as Liberal Arts

頭師 暢秀*

Nobuhide Zushi

一同は啞然たる面持ちを隠せなかった。私が初めて担当した教養基礎（地理）の学期末試験を回収し終えた時の出来事である。ボーナス問題として位置付けていた四国の県名を答えさせる問題に、一見して誤答が目立ったのだ。当時話題となっていた宮崎県やイラクの位置を指し示すことができた大学生が半数に過ぎなかったことを日本地理学会が報告したのも、同じ 2008 年の頃だった。

文部科学省の学習指導要領によれば、都道府県や主だった国々の位置は中学までに学んでいるはずである。しかし、地理は高校で選択科目となる。地理を選択しなかった者が、中学で学んだはずの基本的知識をすっかり忘れてしまった可能性は否定できない。しかし、そんな理由を鑑みたとしても、大学生の地理に関する認識は酷いと言わざるを得ない。

地理に限らず、大学生の基礎学力の低下が指摘されているが、産業界からは、社会で必要とされる汎用的な力が備わっていないという悲鳴が聞こえてくる。文部科学省と経済産業省は、学力、社会人基礎力という概念を打ち出したが、過去にはうたわれなかったことである。つまり、社会の基盤が劣化しているのである。

社会の基盤を構成する一部が教養であることは、中央教育審議会の指摘を待たずして疑いはないだろう。そして、まさに広く一般に必要な資質が一般教養である。しかし、そんな科目の旗色が悪く、全般的に見れば縮小傾向にある。一方で、資格取得講座といった即時的に役に立ちそうなものを売り物にした大学は増加の一途である。何とか入学定員を満たそうと四苦八苦する大学と就職難に直面する学生や保護者の期待が一致した現象であり、これを教養の軽視ととらえるのは性急だろう。おそらく、教養の価値を訴求することが容易ではないのだ。

確かに、一般教養科目は即時的に役立つ内容ばかりとは言えず、現実をみれば、卒業要件を満たすために仕方なく履修していると思しき学生も散見される。単なる暗記科目のように認識され

*流通科学大学サービス産業学部、〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

(2012年2月23日受理)

©2012 Journal of the Center for Liberal Arts

ている傾向も否めない。それでは、こんな時代に求められる一般教養としての地理教育の役割とは何なのだろうか。

「役に立つかどうか」という観点で見たとき、地理は間違いなく役に立つ科目だと言える。教養科目にも即時的に役立つ内容が含まれていることを広く訴えようとするとき、一般教養としての地理は、学生に教養の価値を伝えやすい科目である。

我々は、しばしば地理的知識を要求される場面に遭遇する。たとえば、企業では、取引先、営業先、出張先、ターゲット顧客の居住地、店舗の立地場所選定など、様々な空間的情報処理が要求される。つまり、「何がどこにある」という知識が必要なのだ。冒頭に挙げたような県や国の位置の類は、理屈抜きで暗記しなければならない。上述のような必要性を挙げながら、ともかく暗記させることが肝心だ。ここでは、教養ではなく強要である。

地図を描いて他者に説明し、これを用いて移動する必要に迫られることもある。このとき、限られたスペースに空間的情報を適切に表現し、各種交通手段を用いながら効率的に移動して物事を進めてゆく力は、地理の文脈に限らない汎用的な力である。

ある場所を特定するだけでなく、その場所の様子や周辺地域との関係を理解しなければならない場面にも直面する。ときにはいくつかの異なった方向から地図を読む力が試される。我々の見なれた地図は太平洋の広さを感じさせるが、中露の地図はそうではない。地図を描くにしても読むにしても、ある種の世界観が反映されている。それを理解することは、自己と他者を意識し、多様な人間と社会で構成された世界を認識することに資するだろう。

地理は位置や空間だけを扱う科目ではない。たとえば、各地の産出品がランク付けされ、図表で示されることがある。書類を通じて他者に物事を伝えようとするときに、図表を解釈または作成する経験は、直接的に日常生活に役立つものである。このとき、暗記科目としてランキング表を暗記させるのではなく、その背景を分析してみせることが重要である。様々な土地に根付く自然と文化がもたらす産出品の傾向を知ることは、「なぜ」という意識を持ち、物事の因果関係を論理的に構成する能力を培う機会となるだろう。

このように、地理が即時的に役立つ内容を包含していることは強調されるべき事実である。そして、同様のことはあらゆる教養科目に当てはまることだろう。一般教養は、市中に流通する商品の品質に似たところがあるように思う。品質が劣化するのも向上するのも、消費者の求める水準次第である。その時代に生きる人々が仲良く「知らない、できない」となってはならない。社会の基盤である教養が劣化した今こそ、教養に対する大学生の関心を高める入口となるのが、一般教養としての地理教育の役割である。